

<福島移住女性支援ネットワーク（EIWAN）>

「第5回ふくしま子ども多文化フォーラム」オンラインで開催

◆コロナ禍の継承語教室

2020年、21年と、福島県内でもコロナ感染拡大が広がり、須賀川市「つばさ」では、就学前の幼児が中心であるため継承語（中国語）教室を休止せざるをえなくなった。いわき市の「心ノ橋」は人数を限定して中国語教室と習字教室をかりうじて継続し、また郡山市の「幸福」は、各家庭のスマホを活用して中国語教室をオンラインで実施した。

このように各教室が悪戦苦闘するなか、2020年秋から毎月、子どもフォーラム実行委員会をオンラインで開き、EIWANと「つばさ」「心ノ橋」「幸福」の中国人女性グループのリーダーたちが出席し、各教室の情報交換と子どもフォーラムの開催について話し合ってきた。

そして2021年1月に入ってから、「第5回ふくしま子ども多文化フォーラム」をオンラインで開催することにし、準備を始めた。

◆コロナ禍の子どもフォーラム

3月27日（土）午後2～4時、「第5回ふくしま子ども多文化フォーラム」を開催。今回は、例年のように継承語教室の子どもたちによる文化発表はできず、オンラインによるシンポジウムとなった。すなわち、EIWANの事務局スタッフと、県内のつばさ・幸福・心ノ橋のリーダーだけが郡山会場に集まり、講師と宮城県・山形県・新潟県の継承語教室のリーダーたちをオンラインでつなぎ、郡山会場から全国に発信した。プログラムは、下記のように進めた。

◇講演：榎井縁さん（大阪大学大学院特任教授）「移民の子どもたちと継承語教育」

◇各教室からの報告「コロナ危機下の子どもたちと継承語教育」

- ①つばさ～日中ハーフ支援会（須賀川市）
- ②福島多文化団体～心ノ橋（いわき市）
- ③日中文化ふれあいの会～幸福（郡山市）
- ④瀛華中文学校（宮城県仙台市）
- ⑤宮城華僑華人女性联谊会キッズサロン（仙台市）
- ⑥上越中文学校（新潟県上越市）
- ⑦ハングル学校みやぎ（仙台市・韓国語）
- ⑧山形ムグンファ学校（山形市・韓国語）

◇講師と各教室リーダーたちとのパネルディスカッション「子どもたちの未来を輝かせたい」

◇最後に「福島からのアピール 2021」を日本語・中国語・韓国語・英語で朗読して終了。

◆参加者からの感想と励まし

それぞれ各地域での教室参加者を含めて、視聴参加者は北海道から九州まで80人を超えたフォーラムの後、さまざまな感想と激励が、次のように事務局に寄せられた。

◇「子どもたちの母語・継承語をしっかり支援していこうという保護者の皆さんや周囲

の大人の姿勢こそが、子どもたちがルーツに自信をもって生きていく力を身につける基礎になることを学びました」(静岡の市民から)

◇「被災地で暮らす人たちの生活は、まだまだこれからも続いていきます。応急処置ではなく、持続可能な、新しい関係・仕組みづくりを応援したいし、微力ながらかかわっていきたいです」(神奈川の研究者から)

◇「海外ルーツの子どもへの支援という点、日本語教育のイメージが強いのですが、継承言語の教育の重要性にフォーカスした内容で、重要な視点を得られました。また、東北で散在していた移住女性たちが、震災を機に集まるようになったとのことなど知りませんでした。皆さんの生の声から、葛藤や苦勞を抱えながらも、教育や言語・文化の継承をととても大事に考えていらっしゃる事が伝わってきました」(東京のジャーナリストから)

今回、子どもフォーラムは初めてオンライン開催となったが、これまでは福島の会場に來られなかった全国各地の支援者の方々が、**ZOOM** を通して継承言語教育の子どもの様子を知り、また教室運営に力を注ぐ移住女性たちの話を直接聞くことができたことは、とても良かったと言える。今後も、こうした広がりを大切にしたい。

●佐藤信行 (EIWAN 代表)

「EIWAN ニュース」第 30 号 (2021 年 8 月 11 日発行) 抜粋

* * *

EIWAN が主催／共催／支援する
プログラム
●福島サロン 木曜・土曜クラス
●白河サロン 月 2 回 日曜日
●ほうらい子ども日本語教室
毎週金曜日



■2019 年に行われた「第 4 回子ども多文化フォーラム」にて。

福島移住女性支援ネットワーク (EIWAN)

〒960-8055 福島県福島市野田町 2-3-2 神野ビル 3F 東
(JR 福島駅西口から徒歩 7 分)

電話 : 080-8215-1556 メール : eiwan311@gmail.com

ホームページ : <http://gaikikyo.jp/shinsai/eiwan>

フェイスブック : <https://www.facebook.com/eiwanfukushima>

送金先 郵便振替口座番号 : 00920-0-144820

口座名称 : 福島移住女性支援ネットワーク

〈プリ・キンダーガルテンスクール（インド）〉

日本バプテスト女性連合の皆さま

この1年半の間、さまざまなことがありましたが、その間、神さまが私たちを最も危険な新型コロナウイルスの感染から守ってくださったことを感謝しています。新型コロナのパンデミック（感染爆発）では、私たちを悲しませたり心配させたりするようなことが起こっていますが、日本バプテスト女性連合の皆さまを始めとするクリスチャンの方がたが毎日私たちのために祈ってくださっていて、その祈りのおかげで私たちはこの新型コロナから守られていることを思うと、とても嬉しくなります。皆さま方の祈りは私たちを守るだけでなく、皆さまが私たちを愛し、気にかけてくださっていることを知ることができます。神さまの愛の名のもとに、女性連合とプリ・キンダーガルテンスクールを結びつけ、貧しい人びとや無力な人びとのために奉仕し、祈ってくださっていることに感謝しています。プリ・キンダーガルテンスクールのすべての子どもたち、教師、スタッフを代表して、女性連合の皆さま方、そして日本にあるバプテスト教会からの祈りと助けによって、貧しい子どもたちの間での活動を続けることができたことに、心からの感謝をささげたいと思います。

インドにおける新型コロナの状況

パンデミックの第一波と第二波によって、何百万人ものインド人が、ウイルスを封じ込めるための全国的なロックダウン（都市封鎖）によって仕事や生活の糧を奪われ、貧しくなっていました。ロックダウンはウイルスの蔓延を抑えるために必要なものですが、こうした抑制策には避けて通れない影響があり、子どもたちや家族に永続的な影響を与えています。

インドは、食糧不足に直面している人口が世界で最も多く、パンデミックが始まる前からすでに1億8900万人が栄養不足に陥っていたと推定されています。さらに、今回のパンデミックでは、貧困と飢餓の中で暮らす子どもたちの数が数百万人増加しました。貧困の拡大、食料へのアクセスの欠如、医療制度の不備は、すでに何百万人もの子どもたちに壊滅的な影響を与えています。パンデミックが子どもたちの学習に深刻な影響を与え続ける中、両親が貧困から抜け出したいという希望も、時代とともに消えていくかもしれません。

この1ヵ月半の間、平日は移動が制限され、週末は完全に閉鎖されていました。8月1日に州政府が新しいガイドラインを発表したため、すべてのクラスで1日の出席者数を減らして授業を開始することができました。授業やおやつと一緒に、家で十分な食事がとれない子どもたちには、特別な食料品も提供しています。新型コロナで苦しんでいる人びとのために祈りください。

バケーション・バイブル・スクール（VBS）のためにお祈りください

1986年以来、毎年1回、児童養護施設の生徒や、そのような機会がなかった州の田舎の教会の子どもたちのために、宿泊型のVBSプログラムを開催しています。このプログラムを重視しているのは、この働きを通して、過去に多くの子どもたちがイエスさまを受け入れ、その多くが現在、キリスト教の宣教や教会で働いているからです。このプログラムの効果により、子どもの家を閉鎖した後も、プリの町のすべての教会の子どもたちのためにこのプログラムを続けてきました。

しかし、残念ながら2019年のサイクロン、2020年の新型コロナの大流行の後には、このプログラムを開催することができませんでした。もしパンデミックの状況が改善されれば、今

年は10月に参加者を限定したVBSを開催することができると思います。どうかこのことをお祈りください。

日本では毎日のように新型コロナの感染者が増加していると聞き、大変心配しています。これは感染力の強いデルタ株が原因です。それに加え、長く延期されていた「東京オリンピック」が始まった後、新型コロナの感染者数が1日あたりかつてないほど増加しているとのニュースがありました。毎日、スタッフの祈り会で日本の状況について祈りつつ、近い将来、日本の状況が正常になることを確信しています。

最後に、女性連合が設立されて以来、私たちが受けてきた経済的支援と祈りのサポートを思い起こします。女性連合には、私たちの活動の発展、そして貧しい人びとや困っている人びと、とくに子どもたちのために行ってきた活動の継続のために、いつも感謝しています。女性連合の皆さまの上に神さまの祝福がありますように。

ディレクター
S・K・モハンティ
(2021.8.13 付)



〈ブレス・カンボジア・ネットワーク (BCN・カンボジア)〉

■ご挨拶



「常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば／主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる」(箴言 3・6)

新型コロナウイルスのパンデミック（感染拡大）は世界を停止させましたが、神はここカンボジアで私たちに委ねているご自身の働きを停止させませんでした。キャンプ場にある私たちの学校は多くの生徒が入学して発足・開校しましたが、パンデミックのために再び閉鎖されました。日本バプテスト女性連合がパンデミックの間、私たちのスタッフと仕事をサポートしてくれたことに感謝します。プノンペンにある 2 つの学生寮（ホール）には、異なる地方から 3

人の女子学生と 2 人の男子学生を迎えました。

最初の半年間で多くのことが起こりましたが、今、カンボジアは新型コロナの感染拡大の時期を迎えており、各機関は状況を抑えるために最善を尽くしています。私たちは、この状況が悪い方へと進まないように祈っています。この困難な時期にカンボジア人に主の愛を伝え続けるために、皆さまのお祈りを感謝しています。私たちの前にはきっと明るい日々が待っていると信じています。主にありて

代表：ギフカ・スー

■Cambodia University Students Fellowship (学生寮・プノンペン)

カンボジアの大学生は教会出席者が少ないのですが、過去数ヵ月間は牧師がおらず、そのために祈っていました。主の良き時に、神さまは卒業生の一人を私たちの牧師として送ってくださいました。アン・シナン牧師は 2011 年の寮の卒業生です。プノンペン聖書大学で学士号を取得し、今は牧師として私たちの仲間に戻り、常駐スタッフとして学生寮の世話もしてくれます。私たちは彼を再び歓迎し、彼の奉仕によって私たちの交わりとホールが引き続き豊かに成長するように祈っています。



アン・シナン牧師

■Domrey Romeal International school



新型コロナの状況により、私たちの小さなキャンプ場の学校は、学校としての活動をしたりしなかったりで、生徒数を増やすことができませんでした。17 人の生徒がクラスに参加しており、さらに多くの保護者が入学の問い合わせをしていましたが、コミュニティでのウイルス感染のため、計画していたことができません。学校のスタッフを助けるために、地元の女性教師を探しています。

この学校が、若い学習者が学びと成長への一步を踏み出すための強固な基盤を築くための良いプラットフォームになると信じています。この機会に子どもたちとその親たちに福音を伝えたいと思っています。日本バプテスト女性連合の支援に感謝しています。学校の教材やオフィスの棚を手に入れることができ、困難な時期にスタッフをサポートすることもできました。子どもたちがキャンパスに戻ってこられるように、状況が良くなることを祈っています。

■Farming Project（農業プロジェクト）

パンデミック第2波の発生により、私たちの活動は停止しました。私たちは、スタッフをサポートするために困難な状況に置かれました。というのも、私たちは農業、学校、キャンプ場などを通して、ほとんどの支援を地方で行っているからです。しかし、学校やキャンプ場が機能しなくなると、すべての資源が尽きてしまいます。日本バプテスト女性連合を始めとする方がたが、私たちが農業を始めるための資金を提供してくれたことに感謝しています。

現在、私たちの農場では、少なくとも3人のスタッフが日々の生活を送ることができます。しかし、土地全体を耕すことができないため、野菜栽培を改善するためには、さらなる資金が必要です。もっと大規模な農業を行う可能性はまだあります。私たちが神さまに仕え続けるために、神さまが私たちを助け、支えてくださっていることに感謝しています。



とうもろこしなどのオーガニック野菜を作ったり、養鶏などを行ったりしています。

祈りの課題

1. カンボジアは今、新型コロナの感染拡大時期を迎えており、各機関はこの状況を抑えるために最善を尽くしています。悪い方へと進まないようにお祈りください。
2. 私たちが苦しい時を過ごしている間、主の守りと備えのために、すべてのスタッフと私たちが奉仕している人びとのためにお祈りください。
3. 外国人スタッフのビザを取得するための必要な免税書類の政府への申請がスムーズに進みますように。
4. すべてのミニストリーがスムーズに運営されるよう、正常な状態に戻れるように。現在、フェローシップ、学校、キャンプ場は閉鎖されています。
5. 2021年の宣教師の家プロジェクトへの経済的支援のために。

Team Bless Cambodia Network
“Create Dream Create Future”
(2021.8.4 付)

〈アガペホーム（カンボジア・プノンペン）〉

女性連合の皆さまが私たちを愛し、私たちを助け、私たちを祝福し、私たちのために祈ってくださっていることに感謝します。神さまが皆さまに豊かに報いてくださいますように。

カンボジアは新型コロナウイルスの第3波を経験しており、今回は最悪の状態です。私たちは3週間の間ロックダウン（都市封鎖）を経験しました。食べ物を買いに行くこともできませんでしたし、すべての学校・教会・店舗などが閉まっています。警察がいたるところにおり、多くの貧しい人びとが空腹で苦しんでいます。

神さまの恵みにより私たちは食べ物がありましたが、カンボジアでは今、生活が大変です。毎日のようにコロナで人が死んでいます。多くの人が陽性と判定され、人びとは故郷を訪れるために旅行することができませんでした。それが3週間続いたのです。

学校や教会、娯楽施設などはまだ閉鎖されています。ホームの子どもたちは家で、オンラインで勉強しています。市場もまだ閉鎖されていますが、道端で食べ物を買うことはできます。

どうか皆さまの上に神さまの守りがありますように。

皆さまのためにも祈っています。

主の平和を祈りつつ

アドノ

(2020.5.26 付)



左上：母の日（アドノさんともう一人の責任者メレンラさんのために、子どもたちがカードとケーキでお祝いしました）。

左下：壊れた柵を直す子どもたち。

右上：ホームでの日曜礼拝の様子。

右下：ロックダウン中は皆で勉強しました。

＜イドナ村女性協同組合＞

（専従スタッフ：4 名、刺繍を専門にする人：約 45 名、刺繍したものを製品に仕上げる人：約 6 名）

水本敏子さんは 1995 年 2 月に日本を出発し、パレスチナの女性たちへの支援活動を始めました。NGO「地に平和」の派遣員、現地 NGO「スンプラ（パレスチナ工芸を支援する NGO）」のマネージャーとして、パレスチナの女性の職業訓練に当たり、その後は「サラーム」の派遣員として主にヨルダン川西岸地区イドナ村の女性たちの支援活動をしています。

イドナ村の女性たちと出会った水本さんは、会合や家庭訪問を繰り返し、1997 年にイドナ村女性協同組合センターの設立に力を尽くしました。イドナ村の女性たちの作り出す作品は、縫製のよさとオリジナルのデザイン、品質の管理、納期の確実さで高い評価をもらっています。

パレスチナには大きな産業がないため、男性たちは現金収入を得るためにイスラエルに出稼ぎに行きます。このような状況の中でイドナ村の女性組合で働いている女性たちの収入は貴重であり、彼女たちの生活にとっても役立っています。

新しい情報は『世の光』2021.9 月号をご覧ください。



（上より）

左 1：水本さんとのミーティングの様子。

左 2：刺繍見本作りの様子。

右：女性組合メンバー。（右から）モシーラさん、ナイーメさん、サディーアさん、ヌハさん。